

地歴公民 (世界史) 東京大学 (前期) 1/3

第1問

5 10 15 20 25 30

15世紀前後の東アジアでは、貿易を朝貢に限定した明の下、華である中国王朝を君、夷である近隣諸国を臣とする国際秩序の冊封体制が形成された。高麗に替わった朝鮮王朝、南北朝を合一した室町幕府、中山王が統一した琉球は明の冊封を受け、その権威を支配に利用し、明から独立したベトナムの黎朝も冊封を受けて臣従した。史料Cに示されるように、琉球は朝貢貿易で繁栄したが、後期倭寇の活動などで明の朝貢体制が動揺するなか、17世紀初めに薩摩に征服されると、冊封を離れた日本の江戸幕府との両属関係に移行した。明から清に替わるとベトナムの諸王朝や朝鮮は清の冊封を受けた。しかしベトナムは国内で帝号を用い、朝鮮は清を夷とみなして明の最後の年号を継続し、儒教儀礼を守る(史料A)ことで自らを中華とする小中華の動きが起こり、華夷秩序は再編成された。清がアヘン戦争で敗北すると、対等な国が条約で関係を結ぶ国際秩序の主権国家体制が東アジアにも強要されるようになった。この体制を受容した明治日本は、琉球を沖縄県として編入し、朝鮮にも主権国家体制に基づく国交を日朝修好条規で強要した。フランスの進出を受けた阮朝は、史料Bのように清との冊封関係を維持したが、清は清仏戦争に敗北し、天津条約で宗主権を失った。清は朝鮮の壬午軍乱や甲申政変に介入することで冊封の維持を図ったが、日清戦争で敗北し下関条約で朝鮮の宗主権も失ったことで、冊封体制は崩壊した。

地歴公民 (世界史) 東京大学 (前期) 2/3

第2問

5 10 15 20 25 30

(1)

(a) 匈奴は冒頓単于のもとで最盛期を迎え、月氏を討ち中央アジアのオアシス地帯を勢力下に入れ、漢の高祖を破り和親策をとらせた。

5 (b) 両地域では清による近代化や漢語教育への反感が高まり、辛亥革命を機に外モンゴルは独立を宣言してチョイバルサンらが社会主義国家を建て、チベットのダライ=ラマ13世も独立を宣言した。

(2)

10 (a) フランス主導でエジプトにスエズ運河が建設されたが、イギリスは運河会社の株をエジプトから買収して運河経営に加わり、またエジプト財政を管理下に置いた。さらにイギリスは立憲化を掲げたウラービーの反乱を鎮圧してエジプトを事実上保護国とした。

(b) クックの到達後に英領の流刑植民地となったが、金鉱発掘と牧羊のため入植した白人が、アジア系移民を制限し白豪主義を採った。

(3)

15 (a) イタリア系移民のサッコとヴァンゼッティは証拠不十分のまま死刑となり、KKKが活動を活発化させ黒人や移民を迫害した。1924年の移民法は排日条項を定め、新移民の制限も強化した。

(b) アメリカのテキサス併合にメキシコが反発してアメリカ=メキシコ戦争が勃発し、勝利したアメリカがカリフォルニアなどを得た。

地歴公民 (世界史) 東京大学 (前期) 3/3

第3問

5 10 15 20 25 30

- | | |
|----|------------|
| | (1) ソロン |
| | (2) 墨家 |
| | (3) コルドバ |
| | (4) ガザーリー |
| 5 | (5) 全真教 |
| | (6) トンブクトゥ |
| | (7) 考証学 |
| | (8) バーブ教 |
| | (9) マルサス |
| 10 | (10) フロイト |